



同窓会会長
占部 憲一

紅葉の季節となり、同窓生の皆様におかれましては、ますますお元気でご活躍のことと推察いたします。

母校、名古屋学院大学は昨年大学院を設立し、新しい大学院棟、副業館にて講義を開始し、また、名古屋の栄にあります中日ビルにて社会人のための講義施設、栄サテライトを新設し、体制もますます充実してまいりました。

同窓会も二万五千名を越える会に成長し、本年10月17日に名古屋ヒルトンホテルにおきまして、第一期生が卒業して30年が経過したことを記念し、30周年記念事業を開催いたしました。

記念事業は講演会と懇親会に分け、講演会は、上智大学文学部の教授、渡部昇一先生より「これからの日本の生きる道」という演題で講演を賜りました。この講演会には、般市民の方にも参加いただきよう新聞に広告を掲載したところ、900名を越える応募があり、抽選にて450名に参加いただきました。

また、懇親会におきましては、ご来賓に大学の教員、職員の皆様を始め、大学の理事、評議員、敬愛同窓会の役員にもご出席を賜り400名を越える同窓会員と旧交を温める機会を持つことができました。

この事業がこのように盛大に開催することができましたのは、役員、代議員を始め、多くのクラブの代表の皆様との絶大なご協力の賜物と紙面をお借りして感謝を申し上げます。

今後、機会がある毎に数々の事業を行ってまいりますが、同窓会の活動にご参加ご協力を賜りますようお願いいたします。



理事長
内山 道明

今年の夏は不順な天候でしたが、名古屋学院大学卒業生の皆さんは相変わらず各地でご活躍のこと、うれしく感じます。

先日の30周年記念事業は大変盛大で、心からお慶びいたします。

大学は今、大学院の充実、経済学部の改組、編入定員増、地元との連携強化など、多くの難しい諸問題を抱えています。皆さんのご協力を切に願います次第です。

すでにお気づきのことと思いますが、名古屋学院大学の教学体制は非常に充実し、立派な学者が多くを占めておられます。今後とも、この傾向を強めて参りたいと念願しています。

いうまでもありませんが、大学教育の成果は、卒業された方がどれだけ社会で活躍しておられるかにあって測られます。その意味でも、同窓生の皆さんの社会的なご活躍は私どもの心からの願いです。

同窓生の皆さんのご活躍が、同窓会という組織での切磋琢磨によりご高揚するのはいうまでもありません。二層協力を深め、母校である名古屋学院大学の発展にご貢献いただけるよう切望いたします。



学 長
佐藤 自郎

爽やかな季節となりました。同窓生の皆様には益々お元気に各方面においてご活躍の様子、心からお喜び申し上げます。また本年は三十周年を迎えられた同窓会に対しまして心からお祝い申し上げますと共に、この間における卒業生の皆様のなみなならぬご努力の結果が社会における名古屋学院大学の評価を高めていただいたものと、深く感謝申し上げます。同窓会としてのご活動も軌道に乗り、機会あることに大学に対しましてご援助をいただきありがとうございます。会長はじめ役員の皆様のご厚意に対しまして心から御礼申し上げます。大学は昨年四月の大学院経済経営研究科(経済学専攻、経営政策専攻)、外国語学研究科(英語学専攻)に続いて、本年四月中国語学専攻を開設することができ、修士課程は完成いたしました。また来春には経済経営研究科の後期(博士課程)の開設準備が進んでおります。

ご承知のとおり、厳しい社会情勢のもとで、卒業してゆく学生諸君が就職を果たしてゆくためには、以前にも増して、本当に社会が求めている人間を育成することが私ども教職員の仕事であると感じ、日々努力しているところであります。単なる表面的な知識、技能の習得のみならず、それを将来予想される様々な局面において活かすことのできる応用力、創造力を備えた人間の育成を目指す必要性を痛感し、建学の精神に基づく豊かな人格と専門知識を備えた学生を社会に送りだそうと心がけております。

また学生諸君にとりて社会とのつながりの一番近い窓口は、何といってもまず同窓生の皆さんです。後輩のため暖かい「助言」ご指導をお願い申し上げますと共に、大学に対しまして、二層のご支援をお願い申し上げます。最後に、同窓会の益々の発展を祈念して、ご挨拶と致します。